

住民が安心して住み続けられるための地域医療を！

地域医療を守る共同行動 みやぎ連絡会 News

2020.09.25.Fri No.4

発行／地域医療を守る共同行動みやぎ連絡会事務局
〒983-0047 仙台市宮城野区銀杏町39-18 (民医労内)
Tel 022-782-0633 / FAX 022-782-0634

県立がんセンター・東北労災病院・仙台赤十字病院 3病院統合問題 県「統合ありきではない」とは言うけれど 県医労連「統合案見直しを」宮城県要請



(県 佐々木課長 (右) に要請書を手渡す中山執行委員長)

9/17 (金) 県庁で県医労連を中心に県への3病院統合問題に対する要請行動を行いました。県からは、健康政策課の課長と他2名が対応。医労連からは、県医労連委員長の中山、書記長小玉、全労災書記長の浅山氏 (写真左)、全日赤労組の五十嵐委員長 (写真中央)、全医労東北の星氏、日本共産党県議団から県議3名、地域医療を守る会の鹿島事務局長が参加しました。

県は、コロナ感染に真正面から取り組んでいる医療機関に対して感謝の意が伝えられました。その上で今回の経過について、新聞報道の通りであるとの話がされ、現状連携にな

るか統合になるかは年末まで議論するとの話がありました。

全労災、全日赤から全国の様子が話され、統合されることでの働いている人たちの厳しさが訴えられ、統合は行わないでほしいと訴えがありました。また全医労からも統合ありきではないのか、このコロナ禍の情勢のなかで地域医療構想自体を見直すべきではないかと訴えがありました。

なぜ労災病院、仙台日赤が名前として挙げたのか、との質問には、東北大からの助言であるとの話がされました。

45分ほどの協議となりましたが、県からは統合ありきではない、公的病院も経営改善は必須だ、などの意見も出されました。当日、報道各社の取材もあり、夕方のニュー報道をはじめ、翌日の新聞報道でも大きく取り上げられました。



次回：地域医療を守る共同行動みやぎ連絡会事務局会議
10月13日 (火) 15:00- 医労連会議室

宮城3病院連携・統合 河北新報 2020.9.18 (金) 名取への立地を 地元3医師会が県に要望

宮城県立がんセンター（宮城県名取市）など3病院の連携・統合に向けた協議で、名取市、岩沼市、亶理郡の3医師会は17日、想定される統合後の新病院を名取市内に立地するよう求める3会長連名の要望書を村井嘉浩知事宛てに送った。

要望書は富谷市が病院誘致に名乗りを上げていることを挙げ「県立がんセンターが富谷市に移転すれば、名亶地区（名取市、岩沼市、亶理郡）の住民、地域医療にとって大きな損失になる」と強調。「各地域の均衡ある医療資源の配分にも反する」と指摘した。

名取市医師会の丹野尚昭会長は仙台市北部周辺に医療機関が集まっているとの認識を示し「（富谷への立地は）地域バランスが崩れ、医療格差につながる」と話した。

宮城3病院連携・統合 河北新報 2020.9.18 (金) 県医労連、反対の要請書を県に提出

総合的ながん治療体制の構築を目指し、宮城県立がんセンター（宮城県名取市）など3病院の連携・統合に向けた協議を巡り、県医労連などは17日、安易な統合に反対する要請書を県に提出した。

要請書では（1）検討している構想の具体的な内容を開示する（2）統合による人員を削減しない（3）地域医療を拡充する—など5項目も求めた。

県は年内に一定の方向性を示す方針。県医労連の中山修執行委員長から要請書を受け取った県医療政策課の佐々木真課長は「現在、関係団体と協議中で、方向性は何も決まっていない」と答えた。

懇談後、県医労連の小玉高弘書記長は「3病院は地域にとって必要で、それぞれ経営主体も成り立ちも違う。統合されれば、職員の雇用不安が出てくる」と話した。

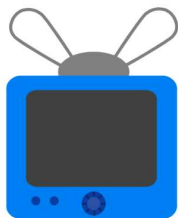
統合する場合の移転先として富谷、名取両市が誘致を表明している。

宮城3病院連携・統合 河北新報 2020.9.18 (金) 富谷市議会が「誘致に全面協力」の決議採択

宮城県立がんセンター（宮城県名取市）と東北労災病院（仙台市青葉区）、仙台赤十字病院（太白区）の連携・統合に関する協議で、富谷市議会は9月定例会最終日の17日、若生裕俊市長が病院の統合移転を想定し市内への誘致を表明したのを受け、実現に向け全面協力するとの決議を全会一致で採択した。

決議は議員が提出。市人口の増加が見込まれる一方で大規模な総合病院がないことに触れ「医療施設の誘致は市民の長年の願いであり、市の大きな課題」と指摘し、市の誘致姿勢を支持。「市のみならず富谷・黒川地域の医療の充実に資する」と誘致実現を求めた。

渡辺俊一議長は取材に「県中心部にある富谷市は県内各地からのアクセスが良く、緊急対応にも適した立地。執行部に協力し、誘致に全力を傾注したい」と語った。



がんセンターなど3病院 仙台放送 2020.9.17 (木)

宮城県に総合病院の統合案について見直しを要請

宮城県が示した県立がんセンターと2つの総合病院の統合案について、医師や看護師の団体などが県に見直しを申し入れました。9月17日は、医療従事者の組合などが県の担当者に要請書を手渡しました。統合が検討されているのは、県立がんセンターと、東北労災病院、仙台赤十字病院の3つの病院です。県の有識者会議は去年、総合的ながん治療の提供や経営の改善などが必要とし、他の医療機関との統合も検討すべきという報告書をまとめ、村井知事が8月、統合に向けた協議の開始を発表しました。これに対し、組合は患者の切り捨てにつながるとして、統廃合は行わず職員の雇用を守るよう要請しました。

宮城県医療労働組合連合会 小玉高弘 書記長「地域の方にとっても今までかかっていた病院がなくなるかもしれない。地域経済にも波及するという観点で要請した」

県は要請に対し、何も決まっていないとして回答を避けました。